

郷土の先人 Ver. 4

こころ

# かごしまの心

きょう せんじん  
～今日，どの先人？～

小学校  
1・2年



「あなたの おし は だれですか？」



鹿児島県教育委員会

鹿児島県

# もくじ

「**主題名**」

「**教材名**」

「**登場する人物**」

1 「かんしゃの **気もち**」 — 「わたしたちの **家ぞく**」 …… 1

【**上白石** 萌音・**上白石** 萌歌】

2 「ちがっていても **なかよく**」 — 「**ママ**が **教えてくれたこと**」 …… 4

【**AI**】

3 「**みんなの** **ために**」 — 「**利右衛門**さんの **からいも**」 …… 7

【**前田** **利右衛門**】

4 「あい手の 気もちを 考えて」——「たすけられた さいごうさん」… 10

【西郷 隆盛・土持 政照】

5 「くじけない 心で」——「くるしさを のりこえて」… 13

【鶴田 義行】

6 「ふるさとを 思う 気もち」——「人を 思い ふるさとを 思う」… 16

【八島 太郎】

### じどうの みなさんへ

この本は、かごしまと かかわりのある 人たちの お話が のっています。どのお話も その人が かごしまで すごしながら 思ったことや 考えたことが 書かれています。このお話から 考えたことなどを 自分の 生かすに 生かして みましよう。

※ じゆぎよう いがいても 読んでみたい 人の 話が あったら 読んでみましよう。

※ この本の ほかに かごしまと かかわりのある 人たちの お話をのせた本に 「郷土の先人」・

「続・郷土の先人」「不屈の心」・「ふるさと心」があります。学校においてあったり、鹿児島県教育委員会の ホームページに のっていたりするので 読んでみましよう。

# 1

かんしゃの 気もち

## わたしたちの 家ぞく

かごしまで 生まれそだち、今では 東京を 中心に 外国でも  
活やくしていて、はいゆうや 歌手の しごとを している 二人が  
います。その二人の 名前は、あねの 上白石萌音さんと いもうとの  
上白石萌歌さんです。

萌音さんと 萌歌さんは、お父さんや お母さんから

「人に 会ったときは、この人に ありがとうって 言えることは

なかったかなと 思いかえして 考えなさい。」

「考えないで ものを 言っでは いけないよ。」

などと よく 言われていました。だから、二人は

「お父さんや お母さんのことを きびしい。」と 思って いました。

二人は 大きくなり、萌音さんは 大学じゅけんの べんきようが



うまいか ず 気もちが おちこんでいた 時ときが ありました。その時とき  
お父とうさんと お母かあさんから

「一生いっしょうけんめい やった けっか たどりついた

場ばしよが 一いちばん いい場ばしよだよ。」

と 言いわれました。お父とうさんと お母かあさんの この ことばを

きっかけに 萌音もねさんは「うまく いかなくなったこと、つらくて

しようがなかった ことは なによりの エネえルねギるーぎーーになり、しっぱいも

たからものになる。」と 考かんえがることが できるように なりました。

萌歌もかさんも、十八才じゅうはっさいの時とき はいいゆうの しごとをを していて 自じ分ぶんの

力ちからが 足たりないと おちこんでいた ことが ありました。その時とき

お父とうさんと お母かあさんから、

「どの おしごとも 大たいへんだから 自じ分ぶんだけが 大たいへんだと 思おもわない

ほうがいいよ。はたらくことは つらい思おもいを することも あるから



自分で えらんだ道に せきにんを もって やりなさい。」  
と 言われました。お父さんと お母さんの ことばを きっかけに  
萌歌さんは、「自分を ささえてくれる 人たちも くるしいことが  
あるから、自分も がんばろう」と 考えることが できるように  
なりました。

萌音さんと 萌歌さんは、きびしく しかってくれたり、たくさんの  
ことを 教えてくれたりした お父さんや お母さんの ことばを 今も  
大切に しています。そのことばは、二人が きんちようしたり  
ふあんになったりした 時に ゆう気を  
くれるものになっ ています。二人は、お父さんや  
お母さんのことを 思うと、「ありがとう。」  
という 気持ちで 心が いっぱいになります。



## 2

ちがっていても なかよく

ママが

教えてくれたこと



AIさんが書いた  
「ハピネス」のかし

このかしを 書いたAIさんは、ちゅうがくせい中学生まで  
かごしまけんで すごしました。

かあお母さんは あめりかアメリカ しゅっしんで、

あいAIさんも あめりかアメリカで すごした ことが  
ありました。

はなしこのお話は、あいAIさんが こ子どもの ときの  
はなしお話です。

あんていアンテイー。これは、にほんご日本語で「おば」という いみみです。

わたしには、あんていたくさんの あんていアンテイーが いろいます。はだの いろ色が

あんていちがう あんていアンテイー。 う生まれた国が ちがうちがう あんていアンテイー。

あ出会って あすこししか あたっていない あんていアンテイー。でも みんなみんな

※ おばおば・・・おとうお父さんや かあお母さんの しまい姉妹にあたる しんせきしんせき

ママの 友だちで、家ぞくのように なかよしです。わたしが  
生まれた 時から、ママが みんなの ことを アンテイー  
と よんでいたの、しぜんに そう よんでいます。

ママは、いつでも だれにでも 話しかけたり、ハグをしたり  
します。ある日、車いすを つかっている人に 出会いました。

わたしは、どうしてよいか わからずに もじもじ していました。

すると、ママは その人に すぐに かけより、声をかけ、  
ハグを しました。わたしは、「ええっ。なにしているの。そんな

ことを したら だめだよ。」と、思いました。そして、ママは、

「ヘイ！ 友だちよ。」

と わたしに 言いました。そのことばを 聞いて、

わたしは、たくさんの アンテイーたちを

※ ハグ・・・あいさつの かわりに あい手を だきしめること



思い出し<sup>おも</sup>ました。

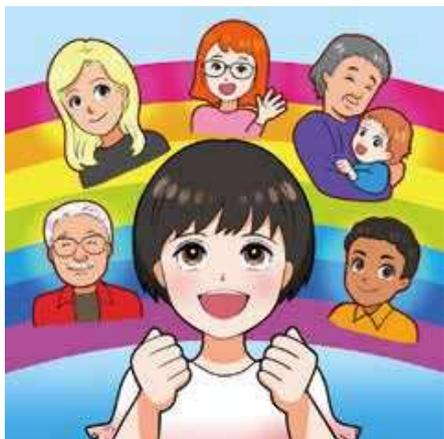
「そうだ。みんな友<sup>とも</sup>だち。そして家<sup>か</sup>ぞく。だ<sup>た</sup>ったな。」自分<sup>じぶん</sup>とはちがうから。なかよくなれない。かかわることはできないと。思<sup>おも</sup>ってしま<sup>っ</sup>って。いま<sup>し</sup>ました。

そうではなくて。自分<sup>じぶん</sup>とは。ちがうからこそ、あい手<sup>て</sup>を知<sup>し</sup>りたくなるし。おたがいの。すてきな。ところ<sup>ところ</sup>に。気<sup>き</sup>づくことが。できること。

そして、ちがっていても。ちがいを。みとめ合<sup>あ</sup>い。ささえ合<sup>あ</sup>う。ことが大切<sup>たいせつ</sup>だ。ということ<sup>こと</sup>を。ママ<sup>ママ</sup>が。教<sup>おし</sup>えてくれ<sup>ま</sup>した。

わたしは、ママ<sup>ママ</sup>のハグ<sup>はぐ</sup>を。もういちど。見<sup>み</sup>て。み<sup>み</sup>ました。

これまでよりも、も<sup>も</sup>っと。心<sup>こころ</sup>が。あ<sup>あ</sup>た<sup>た</sup>か<sup>か</sup>く。な<sup>な</sup>りました。



# 3

みんなの ために

## 利右衛門さんの からいも

「たкусん 食<sup>た</sup>べて おなかいっぱいに なりたい。」

むかし 作<sup>さく</sup>もつが そだちにくかった

山川<sup>やまがわ</sup>（げんざいの 指宿市山川<sup>いぶすきしやまがわ</sup>）で 生活<sup>せいかつ</sup>していた

前田<sup>まえだ</sup> 利右衛門<sup>りえもん</sup>さんたちは いつも おなかを すかせて いました。

ある時<sup>とき</sup> 琉球<sup>りゅうきゅう</sup>に 出<sup>で</sup>かけた 利右衛門<sup>りえもん</sup>さんは、

どんな ところでも そだつという「からいも」に

出<sup>で</sup>合<sup>あ</sup>いました。利右衛門<sup>りえもん</sup>さんは、からいものなえを

山川<sup>やまがわ</sup>に もち帰<sup>かえ</sup>り、毎日<sup>まいにち</sup>たっぷり 水<sup>みず</sup>をかけ、

かれないように 大切<sup>たいせつ</sup>に そだてました。

秋<sup>あき</sup>になり 土<sup>つち</sup>の 中<sup>なか</sup>を ほると たくさんの

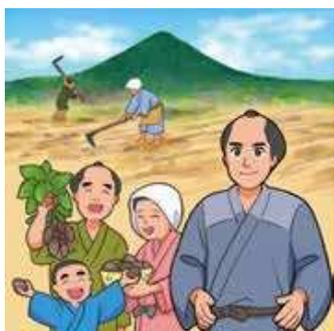
からいもが 出<sup>で</sup>てきました。

※ からいも・・・さつまいも

※ 琉球<sup>りゅうきゅう</sup>・・・げんざいの沖繩<sup>おきなわけん</sup>県



【山川<sup>やまがわ</sup>（指宿市<sup>いぶすきし</sup>）が あるところ】



「あつた。あつた。からいもが あつたぞ。」

大きな声こえで さげびました。そして さつそく 家かぞくで にて 食べました。はじめて 食たべる からいもは ほくほくして、 くりのような あまい あじで みんな え顔がで

「うんまか。うんまか。おなかいっぱいだ。」

と、よろこんで 食たべました。みんなの 顔かを 見みて

利右衛門りえもんさんも うれしく なりました。来年らいねんは もっと

たくさんの からいものなえを 作つくって 山川やまがわの 人ひとたちにも

分わけてあげよう。そして おいしい からいもを 食たべさせて

あげようと 利右衛門りえもんさんは 思おもいました。だから しゅうかくした

からいもは、ぜんぶは食たべず なえを 作つくるために

大切たいせつに とっておきました。

利右衛門りえもんさんは、いろいろ ためして、たくさんの

なえを 作つくることに せいこうしました。そして、できた





やまがわ はたけ ひろ ばたけ  
【げんざいも 山川の畑に広がる からいも畑】



りえもん とっこうじんじゃ  
【利右衛門さんが まつられている 徳光神社】



りえもん なまえ か せき とっこうじんじゃ  
【利右衛門さんの 名前が 書かれた石ひ (徳光神社)】

なえを きんじよの 人ひとに くばり、そだてかたも  
 ていねいに 教おしえて 回まわりました。にても、やいても おいしい  
 からいもは、みんなに 大たいへん よろこばれ、遠とおくからも  
 なえがほしいと 人ひとびとが やってきました。  
 利右衛門りえもんさんの おかげで、山川やまがわでは、からいも  
 ばたけが どんどん 広ひろがって いきました。  
 いちめんに 広ひろがった からいもばたけを、利右衛門りえもんさんは  
 うれしそうに 見みつめて いましました。



# 4

あい手の 気もちを 考えて

## たすけられた さごうじいさん

みなさんは、西郷隆盛さいごうたかもりさんを 知しっていますか。

これは、西郷さいごうさんが さつまの おとのさまを

おこらせてしまい 沖永良部島おきのえらぶしまに つれて

行いかれた時ときの お話はなしです。

沖永良部島おきのえらぶしまで 西郷さいごうさんが 入はいるろうやは

せまくて かべも ありませんでした。食しょくじも

とても そまつな ものでした。

西郷さいごうさんの おせわをしていた 土持政照つちもちまさてるさんは

「このままでは、西郷さいごうさんが びよう気きに なって

しまう。」と 考かんがえ、ごちそうを つくらせて



さいごうたかもり 【西郷隆盛さんが すごした ろうやの ようす (和泊町 西郷南洲記念館)】

出だしました。しかし そのたびに 西郷さいごうさんは、

「お気きもちだけ ちようだい いただきます。」

と 言いって、食たべることは ありませんでした。このままでは  
西郷さいごうさんは 死しんでしまうと 思おもい、土持つちもちさんは いそいで  
だいかんに 会あいに 行いきました。

「おねがいがあります。とのさまからの めいれい書しよには

西郷さいごうさんを かこいの中なかに 入いれよと

書かいて あります。家いえの中なかに つくった

ざしきろうが かこいです。そこに

西郷さいごうさんを うつしてください。」

すると だいかんは、

「ううむ。わかった。家いえの中なかの ざしきろうに



※ だいかん・・・そこにすむ 人ひとびとの 生活せいかつを よりよくする人ひと

※ ざしきろう・・・いえの中なかにある ろうや



西郷さんを うつしなさい。」

と言いました。

土持さんは 大よろこびで、西郷さんの ところへ

つたえに 行きました。

「西郷さん、家の中の ざしきろうに、おうつりください。」

すると、西郷さんは、なみだを ながしながら、土持さんの

話を きいて いました。そして、こう言いました。

「土持さん 本当に ありがとうございます。わたしは この

ろうやの中で いつか 死ぬだろうと思って おりました。」

二人は ろうやの中と 外から 手を かたく にぎりしめ

ないて よろこび 合いました。

西郷さんに とって、土持さんは いのちの おんじんであり

かけがえのない そんざいに なりました。

# 5

くじけない  
心で

## くるくさを のらーんて

鹿児島市の伊敷というところに上の  
しゃしんのようなどうぞうが たって  
います。そのとなりの石ひにはこんな  
ことばが のこされて います。



鶴田義行さんの どうぞうと 石ひ(鹿児島市)

苦しい うちが ダメ  
鍛錬不足の 証拠  
苦しさに 慣れ 平気になつて  
本当の 苦しさを 探究が 始まる

### 【いみ】

くるしいと 思っている うちが まだ まだ どの力も しているとは 言えない。れんしゅうを  
かさねて くるしさに なれて、さらに 高い 目ひようへ むかつて いくことが 大切です。

みなさんは この人が だれか 知っていますか。

この人は、鶴田義行さん。一九二八年の アムステルダム

オリンピックと 一九三二年の ロサンゼルスオリンピックで

日本で はじめて 二大会れんぞく 金メダルを かくとくした

水えいせん手です。そんな 大きろくをもつ 鶴田さん ですが、

けっして はじめから およぎが 上手だった わけでは ありません。

家の前を ながれる 甲突川。鶴田さんが 子どものころは

きょうだいや なかまと その川で よく あそんで いました。

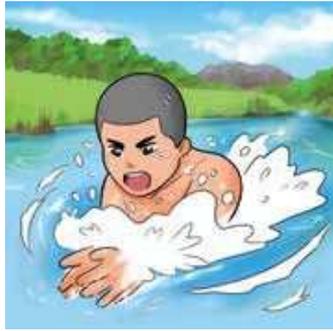
ある 夏の あつい日。鶴田さんは そこで

おぼれそうに なって しまいました。そのころは

まだ およぐことが できなかつたのです。

まけずぎらいの 鶴田さんは それから

およぎの れんしゅうを はじめました。



※ アムステルダム・・・オランダの しゅと ※ ロサンゼルス・・・アメリカの 大きな と市

※ 甲突川・・・鹿児島市を ながれる 川

もちろん はじめは ほとんど 前に すすむことが  
できません。

「くるしいなあ。でも くるしいのは れんしゅうが たりない  
しょうこ。まだ まだ がんばるぞ。」

そうして 何ども 何ども およぎつづけて だんだんと

およぐことが できるようになつてきました。それどころか

なかまたちが 川の ながれに そつて およいでいる中、その

ながれに さからつて 一人 上りゅうへ

上りゅうへと およいでいく すがたも

見られるように なりました。

この 子どもの ころの くるしさを のりこえた

けいけんが オリンピックの 金メダルに

つながつて いったのです。

※ 上りゅう・・・川のながれの 上の 方



お り ん び ッ ク し ュ ッ ト き つ た よ し ゆ き  
【オリンピックに 出 じ ょ う し た 時 の 鶴 田 義 行 さん】

# 6

ふるさとを 思う 気もち

人を 思い ふるさとを 思う

白い すなはまに うちよせる なみの 音。

海を わたる そよ風。

おじいさんに なった 八島太郎さんは、遠く

アメリカの 地で 大すきな ふるさとを

思い出して いました。

八島さんが 生まれたのは げんざいの 南大隅町の

根占です。八島さんは ゆたかな 自ぜんや 友だちと

すごす 時間が 大すきでした。大人に なった

八島さんは 画家となり 絵の べんきようを

したいと 思って アメリカへ わたりました。



【根占(南大隅町)があるところ】

ちようど そのころ、日本と アメリカが せんそうを

はじめました。せんそうは しいに はげしくなり たくさんの

人が なくなりました。八島さんが、ふるさとや 友だちを

思わない 日は ありませんでした。八島さんは、「いのちを

だいに してほしい。生きてほしい。」「人と 人が いのちを

うばいあう ことは ぜったいに あってはならない。」と

平和への 思いを 絵にかいて 日本へ とどけました。

かなしみに つつまれた せんそうが やっと おわりました。

八島さんの ふるさとの 根占も せんそうの ひがいを

うけました。せんそうの ために 大切にしていた 自ぜんや

友だちも うしなって しまいました。八島さんの 心も 大きな

かなしみに つつまれました。

その後、八島さんは、ふるさとで すごした 日びを えがいた

絵や絵本を かきました。

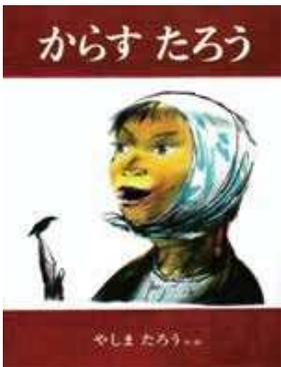
子どもたちとのために。今を大切に生きてほしいと。

友だちと わらいあった 日び、心の ささえとなる  
 人との つながり、大切に してきた  
 思いや ねがい などを いくつもの 作ひんに  
 こめたのです。これからの 未来を 生きる  
 子どもたちのために。今を 大切に してほしいと。

八島さんは、ふるさとの 根占で  
 すごした 日びを えがいた  
 作ひんを かいています。

『からす たろう』・『村の樹』・  
 『道草いっぱい』・『海浜物語』  
 など、八島さんの 少年時代いの  
 思い出や ふるさとへの 思いが  
 つたわる 作ひんです。  
 ぜひ、読んでみてください。

【八島太郎さんが えがいた作品  
 『からす たろう』】(偕成社)



【子どもたちにかこまれる画家・絵本作家  
 八島太郎さん(本名 岩松 淳さん)】  
 (株) 創風社



かごしまけんりつはくぶつかんに ある きょうりゅうかせぎです。  
 この かせぎの後ろに ある 大きな絵も 八島さんが えがきました。  
 子どもが 大すきだった八島さんが、鹿児島の子供たちに  
 見てほしいと 思いを こめて えがきました。  
 かせぎとともに きょうりゅうたちが 生きていた はくりよくある  
 時だいが わかる とても きちょうな ものです。



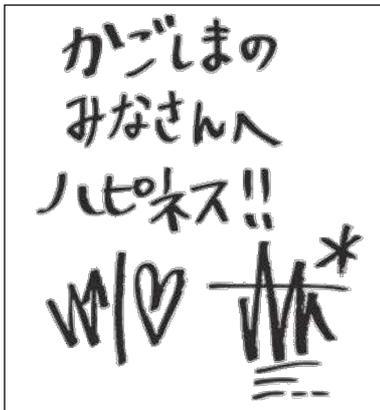
【「海浜物語」の ぶ台である 吹上浜(日置市)】

# みなさんへのメッセージ



あい  
【AIさん】

今、わたしはお母さんが言っていた  
「みんな友だち」ということばが とてもすてきだと  
思っています。「ちがうことが、いけないのかな。」  
「みんな おなじ なのではないのかな。」  
「もともと、みんなを くべつしなくても  
いいのでは ないかな。」 そう思って います。  
どこに すんでいても、どんな ことばを  
話しても、みんなに 楽しく いてほしい、元気で  
あって ほしい。歌っている 歌にも その思いを  
こめて います。そして、その 思いが せかい中の  
みんなに とどく ことが わたしの ねがいです。



かみしらいしも か  
【上白石萌歌さん】

人との ごえんや ごおんを 大切に してください。小さいころに 見た  
けしきや 体けん、友だちと けんかしたことなどは 自分を つくる もとに  
なります。いろいろな ことを 一ばん キヤッチ できる じきだと 思うので、  
まい日、朝おきて 学校に 行く だけでも すばらしい ことです。  
まい日 いろいろな ことを かんじながら すごしてください。



かみしらいしも ね  
【上白石萌音さん】

あいが どんな気もちで いるか、これを 言ったら どういう 気もちに  
なるか そうぞう力を もって 生活してください。  
うれしいことや かなしいことは 大人に なって 自分をたすけて くれます。  
とくに かなしいことや つらいことを けいけんすると やさしく なれます。  
心が うごくことは しあわせな ことです。心を うごかすことを 大いに  
してください。

## 保護者の皆様へ

この本は、鹿児島県の子供たちのために作成した道徳の教材です。子供たちが、この本に登場する人物の考え方や生き方にふれ、自分の生き方について考えを深め、夢や希望をもって過ごしてもらえることを願って作成しました。ぜひ、この教材と一緒に読んでいただき、お子さんと思ったことや考えたことを話し合ってみてください。また、さらに知りたい、深めたい場合には下に記載している【参考・引用文献】も紹介してみてください。

### 【参考・引用文献】（順不同）

#### □前田 利右衛門

「かごしま文庫⑨ さつまいも一伝来と文化一」（春苑堂 1994 年）  
 「令和5年度企画展図録 指宿まるごと博物館XIV 海が織りなす焼酎文化 ～芋・技・肴・器～」（指宿市考古博物館 時遊館COCCOはしむれ）  
 「甘藷翁物語」（三州談義社 1966 年）

#### □西郷 隆盛・土持 政照

「西郷隆盛と沖永良部島」（和泊西郷南洲顕彰会 2011 年）「郷土の先人（土持 政照）」（和泊町教育委員会）  
 「えらぶの西郷さん」（和泊西郷南洲顕彰会 1988 年）

#### □鶴田 義行

「(財)日本オリンピック委員会監修『近代オリンピック 100 年の歩み』」（ベースボール・マガジン社 1994 年）  
 「南日本新聞社編『郷土の人系 中巻』」（春苑堂 1969 年）「知ってるつもり」（日本テレビ 1992 年）  
 「郷土教育 第6号」（鹿児島県総合教育センター指導資料 2021 年）  
 「文藝春秋 第98 巻第1号」（文藝春秋 2020 年）  
 「オリンピックを通してつづいた水泳の心」（鹿児島県総合教育センター読み物教材 2021 年）  
 「南日本新聞『かごしま 20 世紀山河こえて』」（南日本新聞社 1999 年）  
 「伊敷地域ガイドマップ」（伊敷地域まちづくりワークショップ 出版年不明）  
 「日本の金メダリスト事典1 夏季オリンピック・冬季オリンピック編」（ベースボール・マガジン社 2018 年）  
 「失敗図鑑 偉人・いきもの・発明品の汗と涙の失敗を集めた図鑑」（いろは出版 2018 年）

#### □八島 太郎

「八島太郎 - 日米のはざまに生きた画家 -」（創風社 2008 年）

### 【協力】（敬称略，順不同）

東宝芸能（株）／株式会社 ザ・マイカホリックス／指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ／  
 西郷南洲記念館／西郷南洲顕彰館／和泊町教育委員会／和泊町立和泊小学校／南大隅町教育委員会

真竹 由子／山田 みほ子／假屋園 昭彦／島津 公保／下豊留 佳奈／野間 友見／永里 智広／  
 山下 久美子／泉 宗弘／山口 親悟／長菌 誠／前畑 あさよ／塩満 貞徳／所崎 陽／池来須 隆子／  
 坂口 洋幸／安樂 朋陽／梶 千明／諸平 幸奈／西原 真琴／西村 優子／毛利 秀喜／富吉 祐輔

学習内容一覧			
	主題名	教材名	内容項目
1	かんしゃの 気持ち	わたしたちの 家ぞく	B 感謝
2	ちがっていても なかよく	ママが 教えてくれたこと	C 公正，公平，社会正義
3	みんなの ために	利右衛門さんの からいも	C 勤労，公共の精神
4	あい手の 気持ちを 考えて	たすけられた さいごうさん	B 親切，思いやり
5	くじけない 心で	くるしさを のりこえて	A 希望と勇気，努力と強い意志
6	ふるさとを 思う 気持ち	人を 思い ふるさとを 思う	C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度

「道徳教材～小学校1・2年生用～」  
 令和7年2月発行  
 編集・発行 鹿児島県教育委員会  
 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10番1号

日本音楽著作権協会（出）  
 許諾第 2408292-401 号

この本の副タイトルについて

副タイトルを「今日、どの先人？（きょう、どのせんじん?）」としました。

その理由は、以前、私たちが作成した「郷土の先人（きょうどのせんじん）」の続編（4作目）であるからです。

また、これまでの教材を含めて「今日は誰の話を読もうかな」と前向きに思っしてほしいという願いも込めています。